

今人
大家
俳諧增補
新六百題

問宮宇山編輯

上

911.3

八

上

栗菴字山編輯
一事菴史琴校正

今人
大家
俳諧增補新六百題

東京
文雅堂發兌

狂



今人俳諧増補新六百題目録

一月之部		年立	年の始	今年	去年
年の花 五	初空 二	一月一	睦月 二	一日 二	日の始 二
初身 四	四方拜 四	初霞 三	初東風 三	初鶴 三	
初曆 五	初夢 五	宝船 五	井開 四	若水 五	
弓始 五	鎌初 五	船乗初 五	掃初 五	着衣始 五	
三ヶ日 六	御降 六	芋の頭 六	初荷 五	松の内 六	
掛鯛 六	大福 六	福藁 六	結昆布 六	小殿原 六	
手鞠 七	水祝 七	掛想文 七	破弓 七	羽子 七	
養積 七	蓬萊 八	嫁ヶ君 八	寝積 八	雑煮 七	
年玉 八	門松 八	輪飾 九	注連 九	太著 八	
				飾藁 九	

学

味



治龍酒 共	初櫻 共	曲水 共	弥生 共	春の水 共	朧月 共	鶉 共	下崩 共	土筆 共	松の花 共	西行忌 共	森戸緑 共
青饅 共	水の芽 共	出代 共	雛 共	春の鐘 共	朧夜 共	春の日 共	山笑 共	杉菜 共	若草 共	梅 共	海苔 共
鮎繪 共	菜の花 共	彼岸 共	白酒 共	春の海 共	春の雲 共	春の宵 共	山焼 共	芦の角 共	春草 共	梅柳 共	白魚 共
雉子 共	苗代 共	佐保姫 共	桃の酒 共	春菜 共	春雨 共	春の夜 共	焼野 共	葛葉 共	蔭の莖 共	柳 共	鶴の戀 共
乙鳥 共	蔵 共	初花 共	草餅 共	三月 共	春の山 共	春の月 共	鶯 共	獨沽 共	摘草 共	椿 共	貝寄風 共

東風 共	暖 共	沫雪 共	余寒 共	二月之部	寒聲 共	爆竹 共	菘粥 共	龍鬚 共	年男 共	鳥追 共	飾異 共
春風 共	長閑 共	雪解 共	冴返 共	二月 共	寒晒 共	店卸 共	子の日 共	人日 共	恵方 共	猿曳 共	裏白 共
風光 共	霞 共	雪間 共	初午 共	着更衣 共	寒菊 共	寒梅 共	小松曳 共	若菜 共	鏡餅 共	傀儡師 共	穂依 共
鳳巾 共	陽炎 共	浮氷 共	涅槃 共	春立 共	寒念佛 共	捺梅 共	縣召 共	薺 共	福壽押 共	御慶 共	橙 共
養父 共	糸遊 共	日永 共	春の雪 共	春寒 共	御忌 共	寒月 共	左義長 共	芹薺 共	螺着 共	禮者 共	万歳 共

茄子 丑	六月 丑	夏の川 丑	日傘 丑	吟麥 丑	鯉 丑	水馬 丑	蚊遣 丑	割算鳥 丑	麥秋 丑	水下聞 丑	若葉 丑
蓴菜 丑	水無月 丑	夏の山 丑	夏籠 丑	青刺 丑	新茶 丑	蝸牛 丑	蠅 丑	行子 丑	筍 丑	杜若 丑	若楓 丑
菱の花 丑	田植 丑	夏蚊敷 丑	夏書 丑	紙帳 丑	風茶 丑	枝蛙 丑	蚤 丑	鶺鴒 丑	時鳥 丑	芥子 丑	紫櫻 丑
藻の花 丑	早乙女 丑	夏月 丑	扇 丑	煮酒 丑	蝙蝠 丑	蝶 丑	螢 丑	老鶯 丑	菖蒲 丑	菖蒲 丑	夏柳 丑
萍 丑	苗種 丑	六月之部	夏の虫 丑	團扇 丑	鮪 丑	蛸 丑	蚊 丑	閑子鳥 丑	菘 丑	菘 丑	茂 丑

雲雀 丑	雁風呂 丑	蛙 丑	四月 丑	花 丑	水蓮花 丑	竹の秋 丑	若鮎 丑	鞆鞆 丑	五月 丑	明易 丑	懺 丑
雀子 丑	呼子鳥 丑	田螺 丑	鍋祭 丑	櫻 丑	茶摘 丑	初虹 丑	小鮎 丑	寒食 丑	鼻月 丑	更衣 丑	牡丹 丑
鳥の巢 丑	孕鹿 丑	舌美佛 丑	佛生會 丑	躑躅 丑	藤 丑	別霜 丑	柳鮎 丑	行春 丑	五月雨 丑	初拾 丑	芍薬 丑
引霞 丑	蝶 丑	水口祭 丑	灌佛 丑	海棠 丑	望 丑	麥鷄 丑	蚕 丑	夏近 丑	入梅 丑	拾 丑	卯の花 丑
歸雁 丑	初蛙 丑	四月之部	花御堂 丑	連翹 丑	櫻草 丑	櫻魚 丑	寄居虫 丑	五月之部	短夜 丑	青簾 丑	茂の花 丑

散柳 八	花野 七	萩の聲 六	薺 五	忘扇 三	露 二	今朝秋 二	夏果 空	一夜酒 空	晒井 空	毛虫 空	青嵐 空
桐葉 八	鶏頭 七	夕顔 七	藤袴 六	榴夷 三	霧 三	残暑 二	八月之部	氷室 空	竹婦人 空	沖鱈 空	初辰鳥 空
濕柿 九	榴の花 七	糸血 七	蘭 六	萩 四	朝露湯 三	初涼 三	八朔 一	夏水 空	籠控 空	洗鯉 空	蟬 空
初嵐 九	早榴 八	芭蕉 七	秋海棠 六	芒 四	花火 三	秋の野 二	立秋 一	辻の花 空	簞 空	川荷 空	蟬時雨 空
竜田娘 九	番椒 八	葎の花 七	蓮の寶船 六	女郎花 五	相撲 三	蛸の別 二	初秋 一	夏夜 空	葛水 空	清水 空	火取虫 空

夕顔 空	納涼 空	炎天 空	切籠 空	迎火 空	貸小袖 空	文月 空	帷子 空	浮巢 空	今年竹 空	百合 空	夏菊 空
藪子花 空	涼 空	雲の峰 空	踊 空	魂祭 空	願の糸 空	七夕 空	昼寝 空	鹿の子 空	若竹 空	紅の花 空	撫子 空
萩 空	風薫 空	土用 空	盂蘭盆 空	蓮の飯 空	硯洗 空	星祭 空	御板 空	火車 空	竹植 空	青苔 空	石竹 空
風蘭 空	蓮 空	雨乞 空	暑 空	門茶 空	盆の月 空	天の川 空	川社 空	照射 空	水鶏 空	青山椒 空	釣葱 空
凌霄 空	青田 空	夕立 空	日盛 空	燈籠 空	墓祭 空	鶴の橋 空	七月之部	鯨 空	鶉 空	早松茸 空	苔の花 空

今年

吹雪すくすくや子路の四つね

吹雪すくすくや子路の四つね

吹雪すくすくや子路の四つね

吹雪すくすくや子路の四つね

吹雪すくすくや子路の四つね

吹雪すくすくや子路の四つね

吹雪すくすくや子路の四つね

吹雪すくすくや子路の四つね

吹雪すくすくや子路の四つね

吹雪すくすくや子路の四つね

吹雪すくすくや子路の四つね

吹雪すくすくや子路の四つね

去年

年の花

一月

吹雪すくすくや子路の四つね

吹雪すくすくや子路の四つね

吹雪すくすくや子路の四つね

吹雪すくすくや子路の四つね

吹雪すくすくや子路の四つね

吹雪すくすくや子路の四つね

吹雪すくすくや子路の四つね

吹雪すくすくや子路の四つね

吹雪すくすくや子路の四つね

吹雪すくすくや子路の四つね

吹雪すくすくや子路の四つね

吹雪すくすくや子路の四つね

睡眠

一日

一白の足もりきりや岩の

一白の足もりきりや岩の

一白の足もりきりや岩の

一白の足もりきりや岩の

一白の足もりきりや岩の

一白の足もりきりや岩の

一白の足もりきりや岩の

一白の足もりきりや岩の

一白の足もりきりや岩の

一白の足もりきりや岩の

一白の足もりきりや岩の

一白の足もりきりや岩の

吟風

英仙

竹良

乙瓢

摩庭

春山

柳下

粵生

拍山

月村

角

素山

琴友

吟江

吟江

吟江

吟江

吟江

吟江

吟江

吟江

吟江

吟江

吟江

四方拜

一 乃々ふあうたえ 四方拜
玉の吐き多き年 四方拜
拓子の外 四方拜
新 乃々ふあうたえ 四方拜
手の伸ぬ 乃々ふあうたえ
井 乃々ふあうたえ 四方拜
白井 乃々ふあうたえ 四方拜

冷風
槐
杉
之
南
左
山
左
志
丸

初手水

井開

若水

初夢

若水や上取ハ初手ぬ人の汲
若水や志不き美中の箱巻
若水や拾き人の件ハ笈より
子代様ふ先びとを地磨
たふこくくも子や新清め心あて
一 乃々ふあうたえ 四方拜
初夢もあまきうま人のさくらり
初夢も河小舟もくぬきけり
初夢もや歌うたぬる人ハなき
寐毎一 乃々ふあうたえ 四方拜
杉木や梓くくくくくくくく

袋
巻
成
箱
山
水
青
凌
尋
畏
雪
道

室船

掃初

掃 其ののたぐりや高き草根
押 其のや先達草の林葉より

若老
上
葉

着衣始

みよりやとまの毛と着衣始
之舟も偏あつりふりや着衣始

竹良
壯山
一

弓始

男よりせられたる弓
法喜の海の小舟を弓す

寥左
宇山

鋏始

あつりよるの舟と鋏す
てすふ舟を舟とや

有深
桂茶

船乗初

舟あそびや舟も船を舟と
下船初と舟も舟を舟と

若茶
若茶

初荷

空かきし舟も舟を舟と
舟も舟を舟と

若茶
若茶

松の内

家々いなるの松の枝の内
空いなるの松の枝の内

交文
十花

三ヶ日

舟も舟の舟も舟を舟と
三ヶ日の舟も舟を舟と

若茶
若茶

御降

舟も舟の舟も舟を舟と
舟も舟の舟も舟を舟と

若茶
若茶

舟

舟も舟の舟も舟を舟と
舟も舟の舟も舟を舟と

若茶
若茶

芋の頭

舟も舟の舟も舟を舟と
舟も舟の舟も舟を舟と

若茶
若茶

結昆布

昆布の結むすひは、昆布の糸を結ぶこと。

吟

小原

小原の糸は、小原の糸を結ぶこと。

柳

掛

掛の糸は、掛の糸を結ぶこと。

旭

大福

大福の糸は、大福の糸を結ぶこと。

素山

福葉

福葉の糸は、福葉の糸を結ぶこと。

松

雀

雀の糸は、雀の糸を結ぶこと。

去

破弓

破弓の糸は、破弓の糸を結ぶこと。

在

羽

羽の糸は、羽の糸を結ぶこと。

翠

琴

琴の糸は、琴の糸を結ぶこと。

聖

手

手の糸は、手の糸を結ぶこと。

一

水

水の糸は、水の糸を結ぶこと。

竹

掛想文

看藕

雜業

會積

子けりしやちりしきやも説
然くさり目心なうをりりり
心山

自るのふんをきりや然と文
心山

新しきけりし白きや掛想文
心山

居るけりし如くありしや新出文
心山

町ありし如くありしや居るけりし
心山

ありし如くありしや居るけりし
心山

其しやけりし雜業のきりし
心山

水魚のけりし如くありし雜業
心山

買ひしをけりしや雜業のきりし
心山

二つしきりし如くありし雜業
心山

名積や先ききりし如くありし
心山

蓮菜

...

嫁々君

...

蓮菜や...

蓮菜の...

蓮菜の...

蓮菜の...

蓮菜の...

蓮菜の...

蓮菜の...

蓮菜の...

蓮菜の...

蓮菜の...

蓮菜の...

心山

心山

心山

心山

心山

心山

心山

心山

心山

心山

心山

心山

心山

心山

心山

心山

心山

心山

心山

心山

心山

心山

心山

心山

寝積

蘇杭や士五酒のさめぬくち

未石

梅名も枝もくは石さきより

連石

寐積や空のそのもさるすす

下 連石

寐積とぬくくくくくくくく

宇山

右もくくくくくくくくく

永機

右もくくくくくくくくく

徳松

右もくくくくくくくくく

徳松

右もくくくくくくくくく

徳松

右もくくくくくくくくく

徳松

右もくくくくくくくくく

徳松

右もくくくくくくくくく

徳松

門松

門松や枝もくくくくく

徳松

輪飾

輪飾や枝もくくくくく

徳松

輪飾や枝もくくくくく

徳松

輪飾や枝もくくくくく

徳松

輪飾や枝もくくくくく

徳松

輪飾や枝もくくくくく

徳松

輪飾や枝もくくくくく

徳松

飾炭

飾炭や枝もくくくくく

徳松

飾葉

飾葉や枝もくくくくく

徳松

注連

注連や枝もくくくくく

徳松

飾炭

飾炭や枝もくくくくく

徳松

裏白

うらふちやうをいふはるのうらむ

若老

穂俵

穂多きうらむの穂や時めく山の穂

竹嶋

橙

橙の丸きうらむの穂や時めく山の穂

完城

万歳

万歳のうらむをいふはるのうらむ

有隣

鳥追

鳥追のうらむをいふはるのうらむ

翠閣

様曳

様曳のうらむをいふはるのうらむ

杜鰲

俣俣師

俣俣師のうらむをいふはるのうらむ

一

御慶

御慶のうらむをいふはるのうらむ

扇

禮者

禮者のうらむをいふはるのうらむ

旭

年男

年男のうらむをいふはるのうらむ

月

留すてふふふふふふふふふふふふ

一

惠方

惠方家何々々々々々々々々々々々

可水

丁度より向く交々々々々々々々

畏依

口より向く交々々々々々々々

畏依

交々々々々々々々々々々々々々

三友

交々々々々々々々々々々々々々

三友

君々代のを〜〜〜〜〜〜

三友

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

三友

日の丸之月のす〜〜〜〜〜

三友

梅より〜〜〜〜〜〜〜〜〜

連水

名々々々々々々々々々々々々々

青山

従ひ〜〜〜〜〜〜〜〜〜

三友

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

三友

福壽州

名の付〜〜〜〜〜〜〜〜

可然

一編々々々々々々々々々々々

柳仙

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

可昌

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

梅有

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

弄山

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

金瓶

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

奉元

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

吳仙

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

寧元

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

吟風

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

壯山

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

生白き

螺肴

龍煎賣

人日

若菜

御忌
月夜を尋ふすもつらき御
梅をくゞり給末もしては
法
鳥文

二月之部

二月
荳苗や水袖の咲く二月之部
尋出

着衣
後より降り降るや下りのなほ雪
澄江

立
看文おのり日や空をふふ
山

春
春をくもりふさぐや月が海
永年

春
春をくもりふさぐや月が海
一竹

余寒

余寒
花の白き葉小むを見る
身出

松をくもりふさぐや月が海
羊山

初夕の押し除おろすよらん
初文

山のおもひ成てらるゝ
初文

初午
初午や口をととさ
初文

涅槃
涅槃のつらきふさぐや月が海
初文

春の雪

牛山の雪ふりて... 新巻の解... 雪解

牛山

新巻

雪解

雪

雪

雪

雪

雪

雪

雪

雪

雪

沫雪

沫雪... 雪解

沫雪

雪解

雪

雪

雪

雪

雪

雪

雪

雪

雪

雪

雪間

雪間... 浮氷

雪間

浮氷

浮氷

浮氷... 日永

浮氷

日永

日永

日永... 暖

日永

暖

暖

暖... 長閑

暖

長閑

長閑

長閑... 雪

長閑

雪

萬若葉

野を覆ふ浦も芳のいふ如し

山

老松年々かきつる若此わたり

松

獨活

福信の香か集い色あき耕は

遠

ゆり人此智恵を別取は

若

下 蒲

餅烟を焚くは芳くや

福

梅赤く浮横は雪ふ下も

桂園

下もや葉まきき 伸ふ

山

山 夾

松をまき葉をいふ

茶

ふりたるゆり

凌雲

山笑ふ夕和れ

標山

山焼や

招海

山焼や

招海

山 草

山焼や

招海

燒野

山焼やわび

草

流るる焼く

松

炭のまき

山

豆のまき

草

葉の水

木

くく

木

葉のまき

三

葉のまき

若

く

山

入

葉のまき

十

葉のまき

葉

葉のまき

十

葉のまき

葉

葉のまき

葉

春の夜
春の宵
春の目
春の夜
春の宵
春の目

春の夜
春の宵
春の目
春の夜
春の宵
春の目

春

春の夜
春の宵
春の目
春の夜
春の宵
春の目

春の夜
春の宵
春の目
春の夜
春の宵
春の目

春

春の夜
春の宵
春の目
春の夜
春の宵
春の目

春の夜
春の宵
春の目
春の夜
春の宵
春の目

春

春の夜
春の宵
春の目
春の夜
春の宵
春の目

春の夜
春の宵
春の目
春の夜
春の宵
春の目

佐保姫

佐保姫の袖のすゝめは人々の
佐保姫の袖のすゝめは人々の

魯 魯
宋 宋
三 友

初花

初花をみればはるかに
初花をみればはるかに

通 宇
杜 岩

初櫻

初櫻をみればはるかに
初櫻をみればはるかに

一 櫻
一 櫻

木の芽

木の芽をみればはるかに
木の芽をみればはるかに

一 櫻
一 櫻

菜の花

菜の花をみればはるかに
菜の花をみればはるかに

一 櫻
一 櫻

苗代

苗代をみればはるかに
苗代をみればはるかに

史 葉
吟 風

苗代は畑の田子集る下保礼
苗代は畑の田子集る下保礼
苗代は畑の田子集る下保礼
苗代は畑の田子集る下保礼
苗代は畑の田子集る下保礼
苗代は畑の田子集る下保礼
苗代は畑の田子集る下保礼
苗代は畑の田子集る下保礼
苗代は畑の田子集る下保礼
苗代は畑の田子集る下保礼

南 長
有 海
宇 山

蛙

方角の水産にあり 初らる河
鹿の糞を性や鹿人乾まら
抽新ゆらうとき花空やなく味
寐てつた聲の重るうそり
名喊るや鐘平 性ゆめ多時
面平なる花の静きや 味性
月とくくしやうくく性ゆめ
多ゆ戸子固も味 味性
田螺 松ふ子ゆ田子 味性
四埋 味性 味性 味性
松風口吹 味性 味性
猿人もま味性 味性

井 十 桑 梅 梅 梅 林 人 月 松 山

田螺

壬生念佛

水口祭

魚も 味性 味性 味性
多口 味性 味性 味性

四月之部

四月

喜の喜 味性 味性 味性
門前 味性 味性 味性
生る 味性 味性 味性
喜ゆ 味性 味性 味性
喜ゆ 味性 味性 味性
喜ゆ 味性 味性 味性
喜ゆ 味性 味性 味性
喜ゆ 味性 味性 味性
喜ゆ 味性 味性 味性
喜ゆ 味性 味性 味性

三 弘 沈 空 梅 一 井 山

鍋祭

吾々の折子や陳るぬ枝り一
 毎着の坊童も強うや玉堂り
 見事一と暇ふ新く一や本音の世
 家より任去一玉も世より一
 明着の鳥も以て一玉もそら
 伸よりめさうとそりて世の中
 罪すく一嘆きく山の暮りやね
 又世を譲り合ふ世の山
 月影も星も遠く玉堂り一
 多うも心を一水清くや世の中
 寝静く玉をそらうそ松を一
 嘆きや多を頼むそ水り一

白珠
 枝圃
 組馬
 琴左
 二支
 十花
 生花
 一也
 一也
 子老
 似牛
 杜松

櫻

我々の折子や陳るぬ枝り一
 毎着の坊童も強うや玉堂り
 見事一と暇ふ新く一や本音の世
 家より任去一玉も世より一
 明着の鳥も以て一玉もそら
 伸よりめさうとそりて世の中
 罪すく一嘆きく山の暮りやね
 又世を譲り合ふ世の山
 月影も星も遠く玉堂り一
 多うも心を一水清くや世の中
 寝静く玉をそらうそ松を一
 嘆きや多を頼むそ水り一

乙 藤
 上毛 若乃女
 一 唯
 陶 仙
 櫻 就
 董 節
 呉 仙
 孫 山
 史 采
 宇 山
 孫 年
 若 若

躑躅

下り坂の傍り勒けに 散る 櫻
端直年より定めて 櫻りり
昔くいと見てけり 山のさき
その中流を平にそよぐぬ櫻
おきく子に 吐く 吹く 山家
吹のよきころを 吹く 吹く
足くぬと今年のおもふさ
外に櫻一けぬけられぬ 櫻
人の居るうらさの表に 山さ
居るうらさの表に 山さ
躑躅 山や田中 一 躑躅
先中 二 燃えたるを

羽 胸
杜 松
二 休
旭 峰
一 高
茶 泉
精 雄
山 山
洋 山
水 山

海棠

海棠のさき 何とけり 其のさき
海棠や柳おもふ 堂の 菊

下 有 隣
カ 可 性

連翹

連翹の柳の目とともけり 何とけり
連翹やたけり 何とけり

下 有 隔
カ 有 隔

木蓮花

木蓮の上の身 花の屋に 房
木蓮や大なる屋に 房

下 有 隔
カ 有 隔

茶摘

茶摘の葉 人の手にて 摘む
茶摘の葉 人の手にて 摘む

下 有 隔
カ 有 隔

藤

藤の葉 人の手にて 摘む
藤の葉 人の手にて 摘む

下 有 隔
カ 有 隔

ゆきを 枝に 伸る 藤の 葉

下 有 隔
カ 有 隔

此後のこきりてさくさく網

人見ても料理極ふく揚たの

若鮎 若鮎やびとぬくく音ちあり

若鮎やびとぬくく音ちあり

小鮎 小鮎は飯てえささい鮎交り

小鮎は飯てえささい鮎交り

柳鮎 若川や河もささきの上り鮎

若川や河もささきの上り鮎

蚕 濁りなきさ年音ちを料理

濁りなきさ年音ちを料理

寄居虫 糸をよの月も持ふく柳鮎

糸をよの月も持ふく柳鮎

糸をよの月も持ふく柳鮎

糸をよの月も持ふく柳鮎

糸をよの月も持ふく柳鮎

糸をよの月も持ふく柳鮎

糸をよの月も持ふく柳鮎

糸をよの月も持ふく柳鮎

糸をよの月も持ふく柳鮎

糸をよの月も持ふく柳鮎

糸をよの月も持ふく柳鮎

糸をよの月も持ふく柳鮎

糸をよの月も持ふく柳鮎

糸をよの月も持ふく柳鮎

糸をよの月も持ふく柳鮎

若鮎

小鮎

柳鮎

蚕

寄居虫

此後

人見

若鮎

小鮎

柳鮎

蚕

寄居虫

糸を

よの

月も

持ふ

く柳

鮎

糸を

よの

月も

持ふ

く柳

鮎

糸を

よの

月も

持ふ

く柳

蠅

蠅の出すや口のわがえり きハ
をきりぬるりを懐の穢穢此
懐や風平 齋くきハあー
子子ゆーつ免を筆の筆の那
子子やと家山と懐き多なるら
子子も懐ーつを子の懐ひるね
向ひ外懐ひーと付て多る
風名へ懐き出たり多すかー
水馬ゆーくー見世ハ如と川
玉世を懐き多すーと蠅平
角七古を懐り多す朱ら幅朱
えき懐や肩り指平 個牛

伊川 南長 有隣 素石 旭扇 刀水 ちねき 十花 清純 赤奈 牛背 瓦全 赤静 此山 涼衣 素乙 奉迎 尊庭 桂圃 青曉 素山 山 赤産 電喉

蚤

蝶

子

水

馬

牛

蝶の出すや口のわがえり きハ
をきりぬるりを懐の穢穢此
懐や風平 齋くきハあー
子子ゆーつ免を筆の筆の那
子子やと家山と懐き多なるら
子子も懐ーつを子の懐ひるね
向ひ外懐ひーと付て多る
風名へ懐き出たり多すかー
水馬ゆーくー見世ハ如と川
玉世を懐き多すーと蠅平
角七古を懐り多す朱ら幅朱
えき懐や肩り指平 個牛

伊川 南長 有隣 素石 旭扇 刀水 ちねき 十花 清純 赤奈 牛背 瓦全

枝 蛙 百味ふん枝の登り竹の林性

為柳の阿子一ゆくち、杖性

編 蝠 編蝠也、弓、弓、舞、舞、

編 蝠 編蝠也、弓、弓、舞、舞、

編 蝠 編蝠也、弓、弓、舞、舞、

編 蝠 編蝠也、弓、弓、舞、舞、

編 蝠 編蝠也、弓、弓、舞、舞、

編 蝠 編蝠也、弓、弓、舞、舞、

編 蝠 編蝠也、弓、弓、舞、舞、

編 蝠 編蝠也、弓、弓、舞、舞、

編 蝠 編蝠也、弓、弓、舞、舞、

編 蝠 編蝠也、弓、弓、舞、舞、

編 蝠 編蝠也、弓、弓、舞、舞、

編 蝠 編蝠也、弓、弓、舞、舞、

編 蝠 編蝠也、弓、弓、舞、舞、

編 蝠 編蝠也、弓、弓、舞、舞、

編 蝠 編蝠也、弓、弓、舞、舞、

編 蝠 編蝠也、弓、弓、舞、舞、

編 蝠 編蝠也、弓、弓、舞、舞、

編 蝠 編蝠也、弓、弓、舞、舞、

編 蝠 編蝠也、弓、弓、舞、舞、

編 蝠 編蝠也、弓、弓、舞、舞、

編 蝠 編蝠也、弓、弓、舞、舞、

編 蝠 編蝠也、弓、弓、舞、舞、

編 蝠 編蝠也、弓、弓、舞、舞、

扇

壁を成る月、のり多き扇、此は、
連水

石より、かかき、その扇は、
三友

湘川の、踏、千、息まぬ扇、
執扇

何事、小是、千、あや、扇、
此は

山、千、かき、て、扇、
翠湖

持、一、下、風、新、き、扇、
然如

端、在、多、き、夕、雨、又、扇、
味中

香、を、扇、を、き、出、し、扇、
香中

空、を、扇、を、き、と、扇、
蓮中

鏡、花、の、扇、を、き、と、扇、
今中

傍、り、扇、を、き、と、扇、
一
扇

團扇



冷交 青刺 紙帳

アキノヤ 急ぎてよ味のある
紙より甘味もや月夜の油も船
提へるを水のくもくもろこ船
流川の月もやいそん紙の味
飯すしおひもるめえれりれ
冷交や唯先を不意のく通り
冷交の虫とらをもくもく
冷交や相おぬ 百の一 款一り
まきしやをけしき中のもの
まきしやをけしき中のもの
まきしやをけしき中のもの
まきしやをけしき中のもの
まきしやをけしき中のもの

連水 一 志 橋 山 内 山 井 山 岳 岳 士 乙 素 山 恐 山

扇

團扇

壁を成る月よりの多き 扇は
石より 小かきしきやの扇は
羽のの 蝶 千 志 扇の 扇は
何より小 是 千 羽 扇の 扇は
山 千 羽 扇の 扇は
扇は 一 千 羽 扇の 扇は
扇は 一 千 羽 扇の 扇は
扇は 一 千 羽 扇の 扇は
扇は 一 千 羽 扇の 扇は
扇は 一 千 羽 扇の 扇は

連水 三 友 執 弟 似 非 翠 洞 然 知 味 中 産 中 産 中 産 中

其書

書てんやうぬのうやま書家

秋叶

其日

予々まて思つるるむう年

吟

其の月

其の月入をすしき安ぬ家を思

木間

其の

窓も縁もほけおけやちの月

末松

其

惟も侍るのうそまやまの月

交文

其

人ありしなれぬよやまの月

草履

其の聖

心くまもふまもくくふし友のや

浪詩

其

兄の舟山渡りたりまのや

蓮峰

其の川

深しきを傳まら深しなれ川

素玉

其

人即ち流るるなれ松川つれ

名山

其の山

名山や何をあさうを岩乙を

蓮宇

其

名山やまふふふふ流るる

岩

田植

早乙女

水手自中やあつり望み暮たしき

空所

あつり此人可中うら月あ出る

一化

あつりや望を見出や望望

井重

望みき届入のあつり田植う神

^上井裁

植し田中望みお返さハ一なりめ

可水

望みん系田を人工植ささる

勇望

尾を破て牛も出せり田植

蛙村

田を植て風平氣すつは別

重所

田植しは望み望み望み望み

新行

望み望み望み望み望み望み

宇山

早乙女の望み望み望み望み

左島

早乙女の望み望み望み望み

文館

菱の花

坂中より 淋き付たり 菱の花

者 河

薄の花

流川の傍に 石を立ぬ 薄の花

文 河

原の草や 山と 雨 夕暮

雨 夕

三原の花は ぬき 昭の 折を 下り

匠 文

萍

萍や 久人を 舟に けし 嘆を たり

舟 河

浮舟の中 さまを 舟を 舟を 舟を

舟 河

岸や 舟を 舟を 舟を 舟を

和 河

舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

舟 河

復 菊

友菊や 瑞所 日 子 花 舟 舟

舟 河

友菊は 舟の 舟の 舟の 舟の

舟 河

友菊は 舟の 舟の 舟の 舟の

舟 河

苗種

早乙女	や回	よま	同	ふり	春奥
一子乙女	中	笑	て	水	兼
早乙女	河	ま	ゆ	田	山
粒	田	わ	く	流	苗
解	ね	ゆ	け	あ	ま
美	苗	ひ	と	て	平
植	く	ま	り	め	主
今	乙	の	早	苗	や
袖	も	の	を	眺	眺
子	橋	の	出	す	や
美	葉	は	種	を	に
ち	る	子	元	息	の

蓴菜

胎子

菱の花

藻の花

萍

復菊

坂	中	を	流	さ	り	菱	の	花	有	沙
美	の	花	も	ま	ま	ま	ま	ま	母	を
流	川	の	流	さ	り	ま	ま	ま	文	流
藻	の	花	も	ま	ま	ま	ま	ま	水	流
岸	や	見	人	を	見	け	け	け	美	流
流	川	の	流	さ	り	ま	ま	ま	余	流
岸	や	見	人	を	見	け	け	け	和	流
今	乙	の	花	も	ま	ま	ま	ま	今	流
今	乙	の	花	も	ま	ま	ま	ま	可	流
今	乙	の	花	も	ま	ま	ま	ま	同	流
今	乙	の	花	も	ま	ま	ま	ま	青	流

青山椒

多熟しゆふふ色なり 青すき
葉より葉干 根をわらあり 青山椒
欲の葉を以 履ひやうなり 青山椒
葉の色干し 踏きぬき 青山椒

枕 臺
呉 仙
扇 炭
芳 律

早松茸

昔の言一 徐を 御世一 青山椒
葉ふまを木、ろも 竹は 早松茸
葉干又とふ 木とて 早松茸
うつむ以下 古井 木葉を 竹
月のさけ 火を 風あり 竹
葉をいさく 境 竹の 竹や竹
葉竹 や 葉を 竹の 一人 竹

竹 風
潭 託
止 若
杜 松
乙 瓢

若竹

葉竹 や 葉を 竹の 一人 竹
葉竹 や 葉を 竹の 一人 竹

乙 瓢
杜 松

浮葉

親より 葉を 竹の 一人 竹
葉竹 や 葉を 竹の 一人 竹

竹 仙

廉の子

親より 葉を 竹の 一人 竹
葉竹 や 葉を 竹の 一人 竹

上 竹

火串

山 竹の 葉を 竹の 一人 竹
葉竹 や 葉を 竹の 一人 竹

竹 仙

照射

照射 竹の 葉を 竹の 一人 竹
葉竹 や 葉を 竹の 一人 竹

竹 仙

鯨

鯨 竹の 葉を 竹の 一人 竹
葉竹 や 葉を 竹の 一人 竹

竹 仙

帷子

帷子や盆盆の室も飾り

尾山

帷子や縁ごとくあり

素山

帷子や何れもよくあり

宇山

昼寝

昼寝せん去る

之左

川原の道ふたや

清山

御稔

御稔とひも

蓮介

やういふれ

湘東

おら

魯堂

川社

水波女の字

素山

乙子の潜り

吟風

吹ぬ

宇山

七月之部

文月

文月や春の

天月

文月や春の

天月

文月や春の

天月

文月や春の

天月

文月や春の

天月

七夕や

曲川

七夕の

柳原

七夕や

一

星祭

二

星の

三

星の

四

硯 泚

硯を以て 於 硯の 瀉ぬ 硯の 神

江 兵

松の 吟 ぬらう 平 硯の 硯

新 山

硯の 硯の 硯の 硯の 硯の 硯

吟 風

盆 の 月

盆の 月 盆の 月 盆の 月 盆の 月

風 鳥

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹

瓦 全

硯の 硯の 硯の 硯の 硯の 硯

仏 頭

蕨 叢

蕨の 叢 蕨の 叢 蕨の 叢 蕨の 叢

異 心

硯の 硯の 硯の 硯の 硯の 硯

柱 圓

杖の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖

竹 車

迎 火

迎火の 火 迎火の 火 迎火の 火 迎火の 火

素 山

迎火の 火 迎火の 火 迎火の 火 迎火の 火

紅 花

迎火の 火 迎火の 火 迎火の 火 迎火の 火

宇 山

天の川

遠く星の如くさー ちり 枕元
 翅板平 松魚の照りや星の宮
 深き川 色や心ゆて紅川
 清きうと 種も風如天の川
 其下をぬきて 居ぬる何
 勢の橋や 宿まきと 貴 命
 勢の橋より きてと 花より 脚
 着とむく におもてまふ 宿松
 ぬらす 宿松の宿りるが 小神
 樹立す けしきも けしきも 小神
 似合し きて 糸の 糸の 糸の 糸の
 と 糸の 糸の 糸の 糸の 糸の 糸の

鶺鴒の橋

貧小袖

願の糸

硯洗

盆の月

蕨衆

迎火

淡き色 けしきも けしきも けしきも
 松の けしきも けしきも けしきも
 洗き けしきも けしきも けしきも
 雲の けしきも けしきも けしきも
 けしきも けしきも けしきも けしきも
 盆の けしきも けしきも けしきも
 けしきも けしきも けしきも けしきも
 蕨の けしきも けしきも けしきも
 迎火の けしきも けしきも けしきも
 迎火の けしきも けしきも けしきも
 迎火の けしきも けしきも けしきも

切 電

踊

百の粒乃老くき炭一ちきりる

竹金

玉葉のちけ浮りゆく燈籠の

十花

灯の消えを月が物さきさきる

桂圃

相もふりぬるる名さぬ地巻りれ

有陳

雲のなき花を切花平灯を入る

松夏

雲り青もむくふ文りをさるり

松願

山里ハ山里うーきさぬ包り針

朗月

ひよりふえぬさるり寝て踊る

夜明

六つそくと出でまてふれ破りね

東き

手振これ舟うねるくをさるり

舟人

峰平火ありて出でるり

交交

寐ささくふんかまてる

水

踊

上サ

玉

水

現祭

現登るは 陸すゝる 佃の灯

亦武

子〜や 重なる〜 哀愁

共仙

魂擲也 身り 産つゆ 八咫より 子

子尚

相もふり 過る 痛くは 鏡 祭

十階

意も 蓮の 浮葉 や 生身 竟

竹山

蓮銘也 人子 類も ぬ〜 心 己

蓮水

蓮の〜 可 過る 心 己

露茶

門茶

さめろ方き 咲〜 色〜 心 己

梅年

心 己〜 咲〜 色〜 心 己

陸山

咲〜 心 己〜 咲〜 色〜 心 己

青山

燈籠

新を 心 己〜 咲〜 色〜 心 己

荷鹿

燈籠 心 己〜 咲〜 色〜 心 己

自省

切菴

百の 萩乃 志〜 志〜 心 己

竹金

玉葉 の 志〜 志〜 心 己

十花

灯の 消え〜 月が 物〜 志〜 心 己

桂圃

相も 志〜 志〜 心 己

有陳

實も 志〜 志〜 心 己

紅菱

空り 志〜 志〜 心 己

松原

山里 志〜 志〜 心 己

朗月

心 己〜 志〜 志〜 心 己

飯咽

心 己〜 志〜 志〜 心 己

東き

踊

心 己〜 志〜 志〜 心 己

外人

心 己〜 志〜 志〜 心 己

交交

心 己〜 志〜 志〜 心 己

上サ

心 己〜 志〜 志〜 心 己

水

心 己〜 志〜 志〜 心 己

青田

森上と夕と一き持まき田こりれ
又てあきまほり一をなふま田に
清なるを登下ふくむるま田こり
よりくまふま田こり

夕顔
夕顔やをとるくれをほす
夕顔やをとりぬる中結成り
夕顔や片隅よりまきまの
夕顔やまきまのいとれぬ豆慧白

鼓子花
鼓子花如城のあ山すま志らま
ひらり月や晴とぬ川を流して
まきまのまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき

麻
麻やや林のまきまのまきまの
まきまのまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき

風蘭
風蘭をまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき

凌霄
凌霄や麻柳くまのまきまの
まきまのまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき

青嵐
青嵐のまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき

鳴り
鳴りのまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき

羊山
羊山のまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき

角
角のまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき

羊山
羊山のまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき

角
角のまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき

羊山
羊山のまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき
まきまのまきまのまきまのまき

洗 鯉

多を明平りしきて 什一 鯉
中川や洗へる鯉は都先く
月代の着のぬやあらひ鯉
厨子で 空平りてらむとて 洗 鯉

鯉吹
梅子
了るき
吟

川 狩

川狩は さそられて来て 面か
川狩は 洲の沙先やくく 空
川狩の 酒りききき 酒きより

川
了るき
南長

清 水

一ツ葉の澄きと 空よきと 清きと くれ
空よきまうと 空よきと 清きと くれ
袖人の 磯を平り 波む 清きと くれ
空よきまうと 空よきと 清きと くれ
空よきまうと 空よきと 清きと くれ

清
十
青
青
芳
阿

あり 海をといふ 青のすゝり くらう 素

照り つをーちり 空平り 志む 清きと くれ

横ひものーと 空ちり 空の 清きと くれ

清は 空を 下 作ら せー 空の 清きと くれ

空を 空で 捕ふ 空と 空の 空の 清きと くれ

空を 空で 空を 空と 空の 空の 清きと くれ

空を 空で 空を 空と 空の 空の 清きと くれ

空を 空で 空を 空と 空の 空の 清きと くれ

空を 空で 空を 空と 空の 空の 清きと くれ

空を 空で 空を 空と 空の 空の 清きと くれ

空を 空で 空を 空と 空の 空の 清きと くれ

空を 空で 空を 空と 空の 空の 清きと くれ

瓢
吹

下
吹

里
吹

伏
吹

空
吹

空
吹

空
吹

空
吹

空
吹

空
吹

空
吹

空
吹

空
吹

晒井

とと井や花むつまきんさう

半子

はら井上体の軽さすりわ化

青髪

春空一雨一掃き一井の常

封翁

竹婦人

別荘へ抱て入りり井婦人

胸臆

名古小成る最才や竹婦人

成典

柳一きりて釣つてせれ竹婦人

ふく奴

古ひしを春のすつとよ井婦人

一化

何ひとのなき阪す竹婦人

史録

篋枕

寤るるを誰と語らん籠する

花巻

源ふりそひまふそまや孫枕

杉翁

算

経書家やそせおたの言む

逢月

いさし太の消えぬそまや井造

湘平

葛水

着多子と一時の華は涼平と

紫流

高きや好なまもあま

雲海

一夜酒

寐しぬ平は味の出て一和酒

封翁

庭々の草もとうや一和酒

芳山

伍そめは風味をそ外一和酒

探山

地をへををさう一和酒

雪山

氷室

何りの清氷室一陰をそま和酒

寒山

何とまうまを新氷室の梅の影

不語

雙氷

是をそまをそまをそま

一晴

寒平、反りそまをそま

中夜

過り花

過り花は若葉の影ひりり

吹雪

舟屋の傘平をそまをそま

逸非

